

# インターネットを使った留学生との交流

熊本大学国際化推進センター・国際語学部門 梅田 泉

UMEDA Izumi

## 1. はじめに

熊本大学留学生センターと改組後の国際化推進センターで行ってきた、日本人と留学生との交流活動や交流学習について紹介する。当初はホームページを使い一般からボランティアを募り日本語学習の支援をお願いしていたが、現在は学内の日本人クラスと留学生の日本語クラスの交流学習が主となっている。その変遷の概要である。

## 2. 日本語ボランティア

1995年4月に熊本大学に留学生センターが九州地区では九州大学に次いで設置された。10月から始まった日本語研修コースの研修生は毎日朝から午後までセンターで日本語の授業、宿舎へ帰ってまた数時間の自習という生活が続く。研修生には当初チューターがつかなかったこともあり<sup>(1)</sup>、日本人と話す機会を是非とも作る必要があった。幸い熊本大学では自由にネットワークを利用できる環境があった。それで1999年後期からホームページを公開し日本語ボランティアの募集を始めた。

募集を始めて半年すぎたころから学期ごとに1～2名ボランティアが増えていった。当初は大学の近くの人に限定していたが、遠方の人もいたので、スピーチで使った写真とテキストをホームページから公開して見てもらった。そして2000年の後期からはサーバー上のBBS（掲示板）で感想を書いてもらうようになった。ボランティアはしだいに増え最大で2004年の37名だった。学内の学生もいたが、多くは県内の他大学の学生や一般の人で、関西や関東、海外からの応募もあった。留学生が初級レベルのため、交流と言うより日本語学習の手伝いをしてもらうという位置づけだった。また、あくまでボランティアであり、いつでも手伝えるわけではないため、計画的な活用はできず必要なときに可能なら来てもらうという形をとった。

ところで2003年頃から交換留学生向けのクラスが増えていった。交換留学生は日本語がある程度話せるが、期間が半年から1年程度と限られている。日本にいる間に、できるだけ多くの日本人と接し、日本文化を体験し、日本人の友だちをたくさん作ってほしい。そこで日本語担当の他の教員とともに、留学生のための交流活動や体験学習など様々な取組を行った<sup>(2)</sup>。同時にインターネットの利用も拡大した。2004年から日本語ボランティアと留学生だけが見られる、交流と学習のためのコミュニティーサイト KUma Ryu Online Community の運用を開始した<sup>(3)</sup>。ここでは、BBSソフトを使って、日本語ボランティアとWeb上で交流ができる<sup>(4)</sup>。そのためにスピーチ発表会の様子をストリーミングサーバー「熊本大学留学生センター放送局」でボランティアのみに公開したり、「私のカルチャーショック」をテーマに留学生が編集したビデオ作品を公開したりした<sup>(5)</sup>。また留学生が自国語で挨拶や簡単な表現を音声で教えるサイト「Webラジオ：世界の言葉で話そう」を制作した<sup>(6)</sup>。さらに2005年の夏から新たにCMSを

組み込んだ「留学と交流サイト」を開設し、交流やイベント情報の発信などに役立てた<sup>(7)</sup>。

学内イベントのほか、小学校との交流会<sup>(8)</sup>、他大学で日本語教育を学ぶ日本人クラスとの交流学習（後述）、熊本県国際協会が主催する国際交流祭典への参加<sup>(9)</sup>、熊本留学生交流推進会議が主催する熊本地区留学生シンポジウム<sup>(10)</sup>の参加などもあった。こうしたイベントには日本語ボランティアにも参加をお願いし、Web上のコミュニティーサイトでの交流活動も行った。この当時の取組については、梅田泉（2008a, 2008b）を参照されたい。なお、これらのサイトおよび活動は留学生センターが改組された2008年12月末で運用をすべて終了した。

### 3. インターネットへの漠然とした期待

当時目指そうとしたのは、留学生と日本語ボランティアが、イベントでの直接交流と、インターネットを利用しての間接交流を通して、お互いに学ぶことのできるコミュニティー作りだった。日本ばかりでなく世界中に日本語ボランティアがいて、Webサイトで活発なやりとりが起こるかもしれないという漠然とした期待があった。

やってみると確かに楽しくメッセージ交換をする留学生やボランティアもいた。しかしそれが日本語学習に有効だったかというと言えない。またいくつか課題も見えた。まずインターネット上でのやりとりを促進するには、留学生よりむしろ日本人側に相当の力量が必要だった。申し込んできた日本人をボランティア登録して、どうぞ留学生にメッセージを書いてくださいと言っても、実際はそう簡単にできるものではない。活発なやりとりには、ボランティア側にWebの活用能力や、我々のサイトを見る十分な時間、留学生交流への熱意、さらに留学生の日本語能力に合わせて日本語を調整する能力、留学制度や留学生の国についての理解も必要だ。ボランティアで応募した人にそこまで求めるのは無理があった。対策として、日本語ボランティア向けにメッセージの書き方を説明したWebページを作ったり、大学に来られる人には講習会をしたりしたが、効果は限定的だった。特に直接会わずにBBSだけで交流するには、日本語ができる日本人でも技術と勇気と慣れが必要だということがよく分かった。

また留学生の方も、毎日サイトを見て積極的に返事を書く人は少数で、週に1～2回、授業の時などに見るという人が多数だった。また、自国内にインターネットがまだ普及していない国から来た留学生の中には、見ず知らずの人からメッセージをもらうことが理解できない人もいた。慣れている留学生であっても、BBSの中に書く日本語には、文法の間違いだけでなく、丁寧すぎたりくだけすぎたりという文体の問題がよく起こった。それを、そのつど日本語教師が割り込んで直すことは、話している当人たちの腰を折るような気がしてできなかった。BBSでの交流を日本語の学習に活かすには、交流活動の前と後のフォローが重要だ。しかし交流中の人に言葉上の問題をコメントするのは、おしゃべりに夢中になっている人の間に入ってその言い方はこう直せと言うのと同じで、非常に無粋なことだ。実際にすべての書き込みを日本語教師が修正することは難しい。BBSでのやりとりは、日本語学習のためと考えるより、自由に書かせて、知り合った人との関係を維持することを目的と考える方が良いと思う。

日本語ボランティアによる交流学習は、ボランティアの個人的な意欲に頼る面が強

く、こちらの意図に沿った運営は難しい。しだいに、交流学习をするなら遠くにいる人でなく、近くにいて会うことのできる人のほうが良いと思うようになった。近い人でもインターネットは便利だ。会う時間が限られていても、インターネットでの交流によって、お互いの関係が維持され、記憶のどこかに知り合いとして残り続ける。直接会って交流活動をしたり、Web上で自己紹介をしたりすることは、交流への働きかけを強める。そしてその交流を継続的に維持する場としてCMSを使ったコミュニティーサイトを活用する、というような方向性がしだいに増えてきた。

#### 4. 日本人学生との交流学习のはじまり

熊本大学から2キロ程度のところにある私立の熊本学園大学で<sup>(11)</sup>、日本語教育を学ぶ外国語学部の日本人のクラスと2001年から交流会が始まった。内容は、「私の国」をテーマに、スピーチの練習をかねて写真を見せながら留学生が話し質疑応答を行うというものだ。留学生1名に日本人数名で、15分ぐらい話しては交代した(写真)。日本人側は日本語教育に関心があるので、初級レベルの留学生と日本語で話すのはいい経験だった。彼らもボランティア登録をしてBBSに参加してもらった。

この一連の交流学习は留学生と日本人双方に非常に好評だった。留学生にとって熊本大学とは異なる私立大学の環境がまず新鮮だったようだ。熊本学園大学は、熊本大学と違ってほとんどの学生が県内出身者で、しかも県内唯一の外国語学部がある。キ



日本人学生との交流学习  
(2004年6月30日)

ャンパスは熊本大学と違って非常に明るい雰囲気、歩いていると「留学生ですか」と声をかける人がいるし、知っているなら挨拶をしてくる。もちろん、全部が全部そういう学生とは限らない。しかし交流会が終わると留学生は誰もが熊本大学よりこちらの大学の方が楽しい、また来て話したいと言う。交流会に参加した日本人学生の方にも、各国の留学生と話したことは相当に刺激を受けたようだ。その後、海外に留学した学生もたくさんいるし、日本語教師になった学生もいる<sup>(12)</sup>。

熊本学園大学での交流学习はやはり2008年で終わった。それまでの様々な交流活動の中でどの活動に一番成果を感じたかということ、真っ先に、この日本人大学生と留学生との交流学习をあげたい。留学生にとっても日本人学生にとってもインパクトのあるこうした交流が、熊本大学でできないのは非常に残念だと思うようになった。

#### 5. 熊本大学の日本人学生との交流学习

2008年と言えば、変革を求めたオバマ大統領が選出された年である。そして熊本大学の留学生センターにも大きな変化があった。増え続ける様々な身分の留学生に充実した日本語教育を提供するため、日本語クラスの構成を変えた。留学生センターも改組され、2009年1月から国際化推進センターとなった。日本語教育以外の様々な業務は国際交流支援部門が担い、日本語教員は国際語学部門に属し国際化推進のために日本語教育は何ができるか、を考えることになった。そして、筆者がまず取組んだこと

が留学生と熊本大学の日本人学生との交流学習だ。熊本学園大学で行った交流学習の経験から、それが日本人学生に大きな刺激を与え、外国語の学習意欲の向上や海外留学の希望者増につながると考えたからだ。

しかし、問題はその方法だった。留学生クラスに日本人学生がボランティアで入ったり、日本人クラスに留学生がボランティアで入ったりする場合は十分な人数の確保が難しい。また負担のかかるような準備をボランティアにさせることもできない。留学生も日本人学生も交流学習はやってみたいが、ボランティアで毎週参加するほどの強い意欲や時間までではない。とすれば、ボランティアに頼るのではなく単位の出る授業の中で行うのが効果的だと考えた。しかし学内の現状では日本人学生と留学生が一緒に受講し、単位の出せる授業を我々が担当するのは難しい。唯一可能なのは教養教育の授業だ。筆者も2000年から担当しており、現在では每学期1コマを受け持っている。ここ数年、外国語教授法をテーマとする講義を主に行っている。そのため留学生との交流をこの教養教育のクラスに組み込むことは、日本人学生にとっても理解を深めることになる。ただ、このクラスを留学生が受講することはほとんどない。熊本大学に入学する学部正規留学生が毎年10名程度と少ないこと、また交換留学生が教養クラスを受講しても、相当の日本語能力がないと単位修得は難しいからだ。

そこで2009年から、筆者の担当する日本人向けの教養教育と留学生向けの日本語クラスで、授業目的は異なり授業時間も異なるが、相互に協力し合えるような内容を組み込んで、交流学習を試みるに至った。まずWeb上での自己紹介を中心とした間接交流で、直接交流を起こすきっかけにした。そして直接会って話す時間を授業内や授業外に用意した。その際以前使ったCMSを、交流学習のためのシステムとして、知り合ったあとの関係を維持するために活用した<sup>(13)</sup>。詳しくは梅田(2010, 2011)を参照してほしい。

## 6. 日本人学生と留学生との交流学習の実際

昨年度後期の例を紹介する<sup>(14)</sup>。すべての参加者は、Web上のコミュニティーサイトで、クラス写真と自己紹介の原稿と音声を作りリンクさせた。交流学習に参加した日本人向けの教養教育は「外国語としての日本語教育E」で日本語教材論をテーマにしていた。授業期間後半にプロジェクトワークとして聴解教材作りを行い、作った教材をサーバーにアップし留学生に実際に学習してもらった。留学生向けのクラスは、中級聴解クラスとプレゼンテーションクラス、そしてゼロ初級の日本語研修生クラスだった。中級聴解クラスはNHK教育テレビの番組「青春リアル」を見て、それについて感想や質問をCMSのアンケート機能で収集し、サイト上に結果を公開し日本人のクラスの学生にコメントしてもらった。また、日本人クラスの学生が制作した聴解教材を実際に学び、感想や意見を書いた。プレゼンテーションクラスでは、写真を使ったプレゼンテーションスライドを作り説明を録音してサーバーにアップし、日本人に聞いてもらった。以上の授業は、すべて熊本大学のPC室を使って行った。サーバーにアクセスし書き込みをする時間を、授業の中に十分ではないが確保し、授業後に大学や自宅のネット端末からも続けられるよう動機付けをした。



「留學生と学ぶ」トップページ (13)



全員の自己紹介

(名前をクリックすると音声と手書き文書のページへ移動する)

**留学生と学ぶ**  
WELCOME to our Community of Frontiers

第五高等学校 英語教師  
(現在の熊本大学)  
夏目漱石像

Kumamoto University

熊本大学国際化推進センター 柳田研究室

Menu

Top Page

- 熊本大学の学生の皆さんへ
- Albums アルバム
- 恐電使用のお部屋
- グループスペース
  - みんなのじこしょうかい
  - プレゼン発表とQ&A
  - 日本を学ぶ

青春リアル会議室

プレゼンテーションI

中級聴解I

日本語教材論

Intensive Japanese

日本を学ぶ

教材を作りました。より良い教材に改善するために、以下の教材を見て、アンケートに答えてください。みなさんの協力が必要です。どうか、よろしくおねがいします。

[日本の世界遺産（せかいいさん）おすすめベスト3](#)

[王手（おおて）～ 将棋（しょうぎ）で遊ぼう](#)

[くまモンと九州新幹線の旅☆in熊本](#)

[熊本の郷土料理（きょうどりょうり）について](#)

[宮崎県（みやざきけん）の伝統文化（でんとうぶんか）](#)

[鹿児島（かごしま）に行こう！](#)

[日本の食文化：定食（ていしょく）を知ろう](#)

[九州の地名について学ぶ！](#)

[熊本弁（くまもとべん）](#)

[日本の花](#)

[八女茶（やめちゃ）の楽しみ方](#)

[熊本の民謡（みんよう）について～おてもやん～](#)

[長崎県の島、五島列島（ごとうれつとう）の場所や食べ物、お祭りに詳しくなるう](#)

[大分（おおいた）の名物（めいぶつ）](#)

[お寿司（おすし）を知ろう](#)

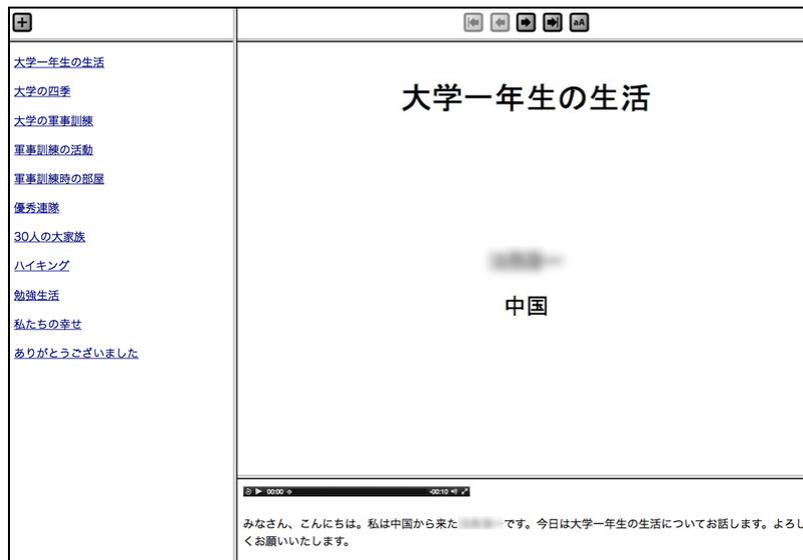
[日本人も知らないおはしのマナー](#)

日本人学生が作った聴解教材を留学生に見てもらう

**プレゼンテーション リンク**

国	国名	国名	国名
中国	熊本・熊大	中国	私の国の～
中国	OPEN 唐揚げのショック	中国	OPEN ふるさとのゴーヤ節
韓国	OPEN 私が経験した熊本	韓国	OPEN 公益勤務要員だったときのはなし
韓国	OPEN すてきな熊本	韓国	OPEN すてきなソウルの橋
韓国	OPEN 楽しい熊本旅行	韓国	OPEN ソウルのデートコース
韓国	OPEN 私の日本人友達について	韓国	OPEN 韓国の大田について
韓国	OPEN 熊本での思い出	韓国	OPEN インサドン通りとサムジギル、そしてナムサンタワー
中国	OPEN 熊本印象	中国	OPEN 峰炭というコンテスト
中国	OPEN 私の見た熊本大学	中国	OPEN 私の大学生活（華東政法大学）
中国	OPEN 楽しいパーティー	中国	OPEN 大学一年生の生活
中国	OPEN 私の見た熊本	中国	OPEN 私の大學-上海師範大學
中国	OPEN はじめてみた熊神祭	台湾	OPEN 私の故郷、高雄
台湾	OPEN 熊本のきれいなところ	韓国	OPEN 韓国の大学のサークル
韓国	OPEN 熊本で好きな場所	韓国	OPEN 華東政法大学の生徒会について
中国	OPEN 夜の熊本	中国	OPEN 永遠な材日0801
中国	OPEN 熊本での交通手段	韓国	OPEN 私の夏休みの生活
韓国	OPEN 熊本での生活	韓国	OPEN 大学生のmt
韓国	OPEN 熊本での生活	韓国	OPEN 韓国の汽車旅行
韓国	OPEN 熊本の生活	韓国	OPEN 粉食と思い出
韓国	OPEN 思い出（熊本の生活）	韓国	OPEN 韓国のウォーターパーク
韓国	OPEN 熊本の生活	韓国	OPEN 韓国のきれいな道
韓国	OPEN 熊本で生活スタート	韓国	OPEN 我が国の食べ物
韓国	OPEN 熊本大学	韓国	OPEN 韓国の交通手段について
韓国	OPEN 熊本大学	韓国	OPEN 韓国の苗字公園
韓国	OPEN 日本の珍しい所	台湾	OPEN 台湾の文化-バイク-流水席-夜市
台湾	OPEN 大好きな熊本		

プレゼンテーションクラスのスライド作品リンク集



留学生のプレゼンテーションスライド例（音声付き）

授業時間以外の活動として、留学生には日本人クラスの時間に教室に来てもらって交流会をした。日本語クラスのない時間帯に教養の授業を入れており、時間のある留学生には来てもらうことができた。自己紹介、熊本の印象、各自のプレゼンのテーマについてなど自由に話した。また平日の夜にプレゼンテーションパーティーを開催した。飲み物とお菓子などを用意し、パネルを使ってお互いの国の話をした。各国の大学生活や高校生活、穴場的な観光地や名物などを写真で説明した。こうした直接交流は、本当は全員に来てほしいが、無理な人もいるので希望者または来られる人だけが参加している。



PC室での交流会



プレゼンテーションパーティー

## 7. コメントから見えること

熊本大学に入学する学生は7割が県外から来ている。様々な学部の1年生が集まる教養教育は、互いに知らない者同士のため、非常に静かだ。それでも留学生と交流会をするときになると、授業とはまったく違う表情で明るく話す学生が多い。しかし留学生が帰るとまた静かな教室に戻る。こうした日本人学生のコミュニケーション行動は、先の私立大学の学生とは明らかに異なる。彼らの行動で気になったことを書き留

めておく。まず自己紹介の下書きをしてくださいと言うと、何を書いていいか思いつかず、教員から名前、学部、出身、趣味などと指示が必要な人がいる（相手が留学生だからか、自己紹介がもともとできないからか不明）。英語で自己紹介を書いたり、または英語で書くんですかと聞いたりする人がいる（留学生＝英語話者と思っているのか）。さらに「敬語を使うんですか」と聞いてくる人がいた。彼らのまじめな一面と、留学生への認識不足が垣間見える。また、今学期初めての試みで、休み時間に自由に話してもらいたいと思い、留学生のプレゼンテーションクラスのと、同じ教室で日本人の教養教育をすることにした。1回目の講義日のこと。授業が終わって留学生が教室を出始めたのだが、休み時間になっていて入ってくるはずの日本人学生が来ない。見ると全員外の廊下にほぼ一列に並んで、留学生が部屋を出るまで待っていたのだ。後で、なぜ待っていたのか尋ねると、「中に留学生がいるのに、入るのは失礼だと思った」という。さらに一度交流会をした後の日のこと。授業を終わって帰る留学生に、外で並んで待っている日本人学生がいたら、挨拶をしてやってほしいと注文した。こういうことは留学生の方が積極的だ。すると、あとで日本人の学生が「話したことのある留学生が挨拶をしてくれてうれしかった」と感想を書いた。こうした「過度の遠慮」があっては、休み時間におしゃべりをする雰囲気はなかなかできない。以前の私立大学ならこんなことはないだろうと思う。外国人と知り合いになり、良好な人間関係を作るトレーニングが、特に熊本大学の日本人学生には必要なのだ。

授業期間最後のアンケートを見ると留学生と話すのは交流会が初めてという日本人学生が多い。彼らは熊本大学にたくさんの留学生がいることに驚く、特に中国・韓国の学生が多いこと（驚きや疑問も）、留学生の日本語が上手、逆に日本語ができない人がいること（驚きや疑問）、積極的に話す、優しい、学ぶ意欲が高い、意見や感想を率直に言う、社交性がある、愛国心が強い、日本人より日本に詳しい、留学生同士で固まって日本人の学生と関わろうとしていない、などが出る。逆に、留学生から見た日本人学生は、「考えるのは九州の中だけ…世界をめざすのが男のロマンだと思う。お互いに交流しながら、視野を広めましょう」「積極的に話してほしかった。日本人としての考えがもっと聞きたかった」「みんな優しいです。ずっと会いたいです。国にもどっても」など。日本人学生と留学生の間の心理的な距離が、まだかなりあるように思う。しかし、この授業が特に日本人学生に与えているものは、かなり大きい。というのは過去に受講した学生に会うと、あの授業が一番楽しい授業だったと言ってくれることが多いからだ。留学生と楽しく話した、知り合いになった、という経験は、若い日本人学生の後の人生に何らかの影響を与えるに相違ない。願わくば、こうした交流学习を、大学全体で、地域全体で、組織的にかつ自由な雰囲気で行うことができれば、と思う。

注

- (1) 日本語研修生にもチューターがつけられるようになったのは、国立大学が法人化した後だったと記憶している。
- (2) 最も活発だった2004年前期のホームページの写真  
[http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/2004F\\_Photos.pdf](http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/2004F_Photos.pdf)  
 この当時の活動は、留学生センターの今西講師、岩谷助手(当時)の協力を負うところが多い。あらためて感謝の意を表す。
- (3) KUma Ryu Online Community の画面写真  
<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/KumaRyuOnlineCommunity.pdf>
- (4) 掲示板ソフトの会議室  
<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/kaigi.gif>
- (5) KRB 熊本大学留学生センター放送局(平成16年度、17年度)の番組の一部  
<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/KRB.pdf>
- (6) Web ラジオ 世界の言葉を話そう トップ画面  
<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/webradio.pdf>
- (7) Content Management System のこと。xoops、Moodle も使ったが、最終的には国立情報学研究所の Netcommons を採用した。以下の写真参照。写真では日付が、資料作成日の2007年3月になっているが、実際に掲載したのは、2005年。最初の写真がトップページで、次の写真はログイン後の交流情報室のトップページ。





(8) 小学校訪問の様子ビデオ（平成16年に行った熊本大学の留学生と附属小学校との交流会の様子）。紹介した動画や音声の子供たちがコンピュータで視聴している。

<http://www.youtube.com/watch?v=n1pQSjQD5yQ>

(9) 国際交流祭典2003、2004の写真

<http://jl.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/saiten2003&2004.jpg>

(10) 第4回(2007年)から熊本地区留学生シンポジウムのポスター

[http://jl.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/Sympo2007\\_poster.pdf](http://jl.ryu.kumamoto-u.ac.jp/kiroku01/Sympo2007_poster.pdf)

なお報告書の第2回、第3回、第4・5回はPDF版がある。お問い合わせいただければお送りする。印刷冊子の第4・5回は、わずかだが残部をお送りできる。

(11) 熊本学園大学 <http://www.kumagaku.ac.jp/>

(12) こういう経験もした。数年前、日本語研修生といっしょに市役所へ行くためバスに乗っていたとき、筆者の名前を呼んで話しかけてきた人がいた。その数年前に交流学習を経験した熊本学園大学のOGだった。卒業して航空会社に勤務しているがたまたま帰省中だそうだ。彼女は、学生時代に経験した留学生との交流学習はとても勉強になったし楽しかった、とてもいい経験だったと語っていた。交流学習での経験が、ずっと後まで日本人学生の記憶に残り、なんらかの影響を与えているのだと実感した。これは後の熊本大学での実践でも実感している。

(13) 「留学生と学ぶ」(通称:きょうりゅうサイト) <http://kyo.ryu.kumamoto-u.ac.jp/htdocs/>

(14) ただし、残念ながら後期は日本人受講生が少なく、交流そのものが停滞してしまった。Webの書き込みも少なく継続的なものがあまりなかった。

**参考文献**

梅田泉(2008a)「留学生センターにおける e ラーニングの取り組み」熊本大学留学生センター紀要 11号 pp.17-33

<http://hdl.handle.net/2298/7629>

梅田泉(2008b)「ICT を活用した日本語学習のための交流活動」熊本大学留学生センター紀要 12号 pp.25-38

<http://hdl.handle.net/2298/11351>

梅田泉(2010)「留学生と日本人クラスの直接および間接交流学習の試み」熊本大学国際化推進センター紀要 1号 pp.13-28

<http://hdl.handle.net/2298/14814>

梅田泉(2011)「日本人クラスと留学生クラスとの Web と音声を活用した交流学習」熊本大学国際化推進センター紀要 2号 pp.23-32

<http://hdl.handle.net/2298/18394>